

神奈川県 商工会地区

中小企業景況調査報告書

—平成27年10月～12月期 実績—
—平成28年 1月～3月期 見通し—



神奈川県商工会連合会

中 小 企 業 景 況 調 査 (平成27年10月～12月期)

◇ 調 査 概 要

1. 調査目的

商工会地区内の地域産業の状況、経済動向等について一定期間ごとに変化の実態や諸事情を把握し、経営改善普及事業の効果的实施を図る。

2. 調査対象

(1)対象地区

10商工会地区

(逗子市・二宮町・寒川町・小田原市橋・湯河原町・愛甲・南足柄市・足柄上・津久井・藤野)

(2)対象企業数

150企業

(3)回答企業数

150企業(回答率100%)

3. 調査対象期間

平成27年10月～12月期(調査時点 平成 27年11月15日)

4. 調査方法

(1)商工会の経営指導員による訪問面接調査

(2)調査対象地区の決定は、商工会地区市町村の人口規模別実態を勘案し、調査対象企業の抽出は、業種、規模等有意選出法による。

5. 対象地区別回答企業数内訳

商工会名	製造業	建設業	小売業	サービス業	調査企業数
逗子市商工会	3	2	3	7	15
二宮町商工会	3	2	4	6	15
寒川町商工会	3	2	4	6	15
小田原市橋商工会	3	2	4	6	15
湯河原町商工会	2	2	2	9	15
愛甲商工会	2	2	3	8	15
南足柄市商工会	2	2	3	8	15
足柄上商工会	3	4	3	5	15
津久井商工会	3	2	4	6	15
藤野商工会	3	2	4	6	15
合 計	27	22	34	67	150

6. DIとは

本報告書の中で一部数字に用いた「DI」指数とは、ディフュージョンインデックス(景気動向指数)の略で、企業経営者の景気見通しを表す指標として利用されている。

増加(上昇、好転、長期化)と減少(低下、悪化、短期化)の企業割合の差を示す。

DIがプラス(+)なら……強気(楽観)

DIがマイナス(-)なら……弱気(悲観)

(例)売上高で増加企業50%、不変企業30%、減少企業20%の場合のDI指数

DI指数・・・50%－20%＝30%

となり、全体としての経営者の売上に対する強気の度合いを表している。

◇業種別(中分類)企業構成

(1)製造業

業種内訳	企業数	構成比
食料品製造業	4	14.8%
飲料・飼料・たばこ製造業	0	0.0%
繊維工業	0	0.0%
衣服・その他繊維製品製造業	2	7.4%
木材・木製品製造業	1	3.7%
家具・装備品製造業	2	7.4%
パルプ・紙・紙加工品製造業	0	0.0%
印刷・同関連業	1	3.7%
化学工業	0	0.0%
プラスチック製品製造業	2	7.4%
窯業・土石製品製造業	0	0.0%
金属製品製造業	4	14.8%
一般機械器具製造業	3	11.1%
電気機械器具製造業	2	7.4%
輸送用機械器具製造業	2	7.4%
精密機械器具製造業	1	3.7%
その他製造業	3	11.1%
合 計	27	100.0%

(2)建設業

業種内訳	企業数	構成比
総合工事業	13	59.1%
職別工事業	4	18.2%
設備工事業	5	22.7%
合 計	22	100.0%

(3)小売業

業種内訳	企業数	構成比
各種商品小売業	0	0.0%
織物・衣服・身の回り品小売業	3	8.8%
飲食料品小売業	14	41.2%
自動車・自転車小売業	1	2.9%
家具・建具・じゅう器小売業	2	5.9%
その他小売業	14	41.2%
合 計	34	100.0%

(4)サービス業

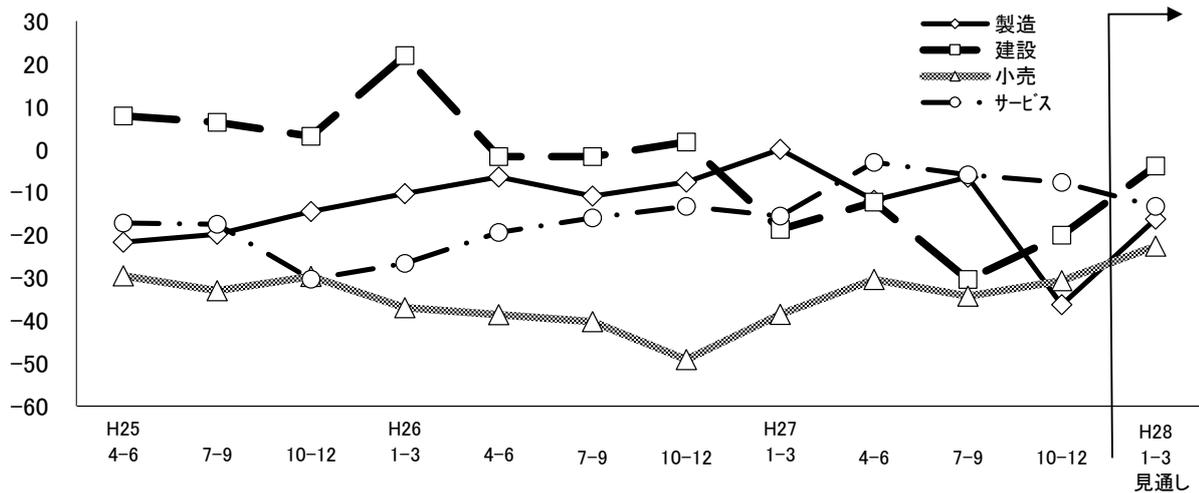
業種内訳	企業数	構成比
一般飲食店(一般・遊興)	23	34.3%
宿泊業	5	7.5%
運送業	0	0.0%
自動車整備業	3	4.5%
洗濯・理美容業	20	29.9%
その他のサービス業	16	23.9%
合 計	67	100.0%

◇産業全体の景況概要

関東経済産業局によると、生産活動は、国内向けが減少している業種があるものの、北米向けの受注が増加した業種もあり、鉱工業生産指数が前月比で2か月連続の上昇となったことから、一進一退で推移している。また、雇用情勢は、有効求人倍率が上昇するなど、総じてみると管内経済は、緩やかに回復している。今後については、国際情勢の変化が国内経済に与える影響について留意する必要がある。(10月のデータを中心として)

- ・鉱工業生産活動は、一進一退で推移している。
- ・個人消費は、持ち直しの動きが続いている。
- ・雇用情勢は、改善している。
- ・設備投資は、持ち直している。
- ・公共工事は、2か月ぶりに前年同月を上回った。
- ・住宅着工は、2か月連続で前年同月を下回った。
- ・輸出入は、輸出は前年同月を下回り、輸入も前年同月を下回った。

産業別 過去3年間の業況DI(前年同期比)の推移
(平成25年4-6月期～平成28年1-3月期)



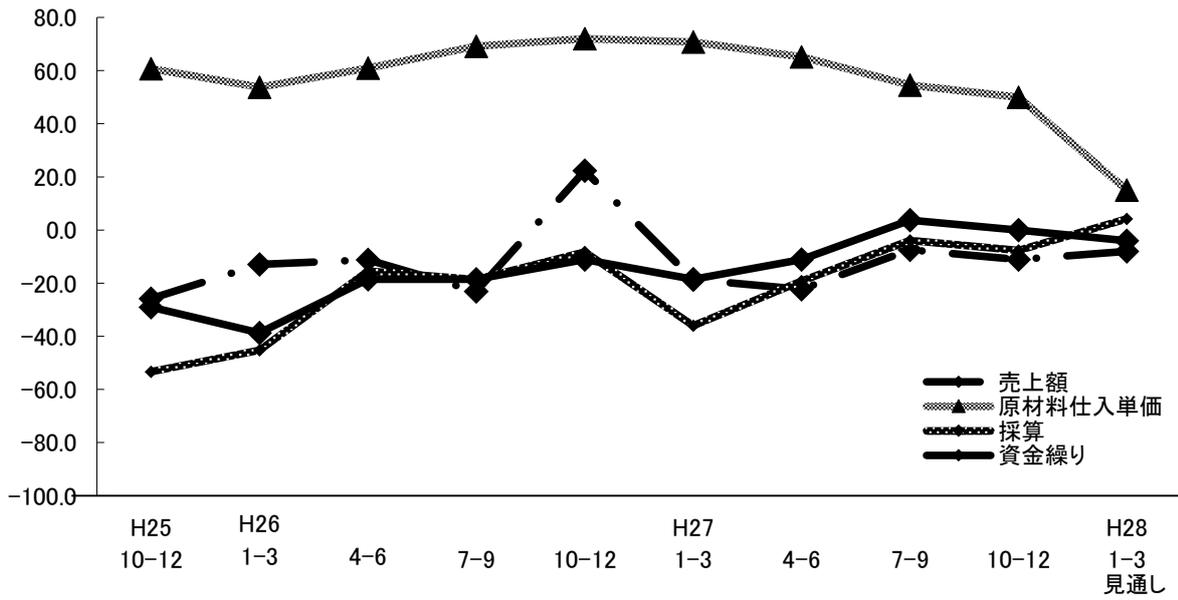
業種別景況天気図

	製造業 27 企業		建設業 22 企業		小売業 34 企業		サービス業 67 企業	
	DI	天気図	DI	天気図	DI	天気図	DI	天気図
H27/1-3	0.0		△ 18.7		△ 38.5		△ 15.6	
H27/4-6	△ 11.9		△ 12.3		△ 30.4		△ 3.0	
H27/7-9	△ 6.5		△ 30.4		△ 34.3		△ 5.9	
H27/10-12	△ 36.3		△ 20.0		△ 30.7		△ 7.7	
H28/1-3 (見通し)	△ 16.3		△ 3.9		△ 22.6		△ 13.3	

DI: 30.1～…………… ☀
 DI: 10.1～30.0…… ☀
 DI: 10.0～△10.0… ☁
 DI: △10.1～△30.0… ☁
 DI: △30.1～…………… ☁

◇業種別景況概況

I 製造業



DI: 30.1~.....

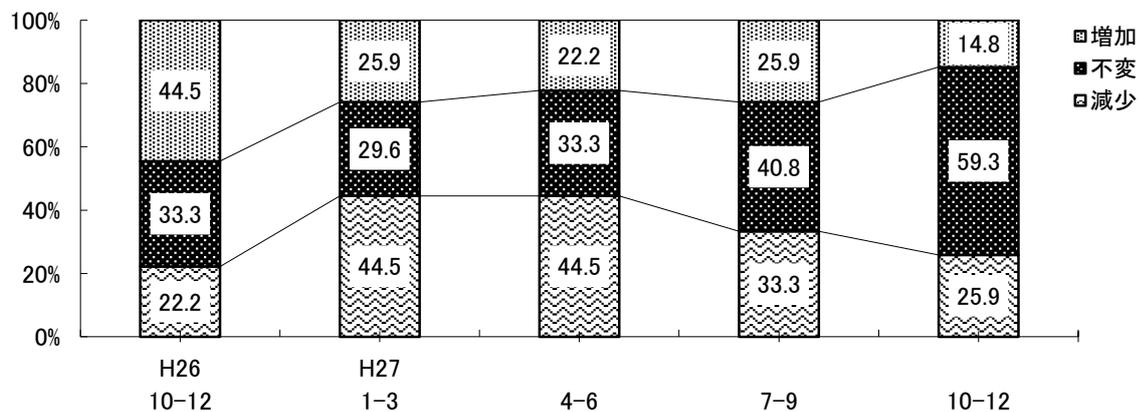
DI: 10.1~30.0.....

DI: 10.0~△10.0...

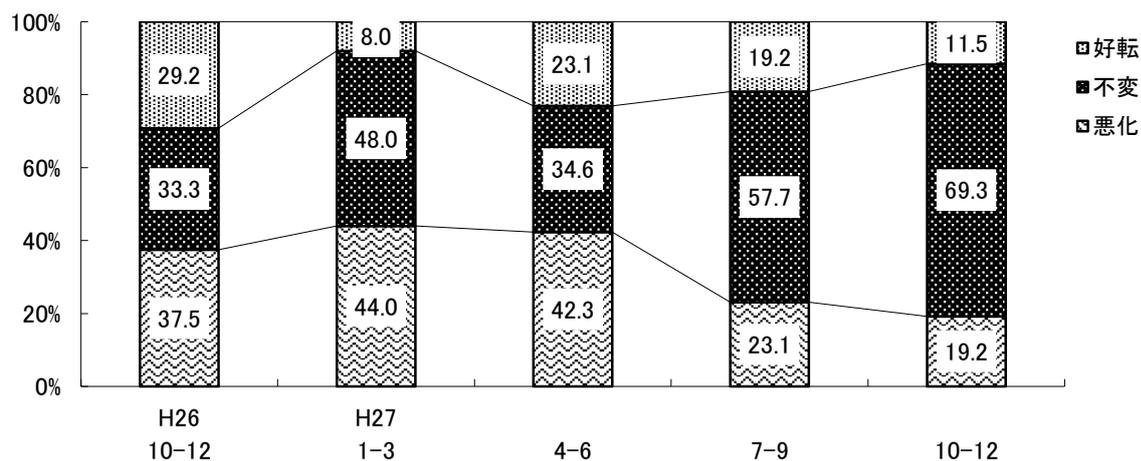
DI: △10.1~△30.0..

DI: △30.1~.....

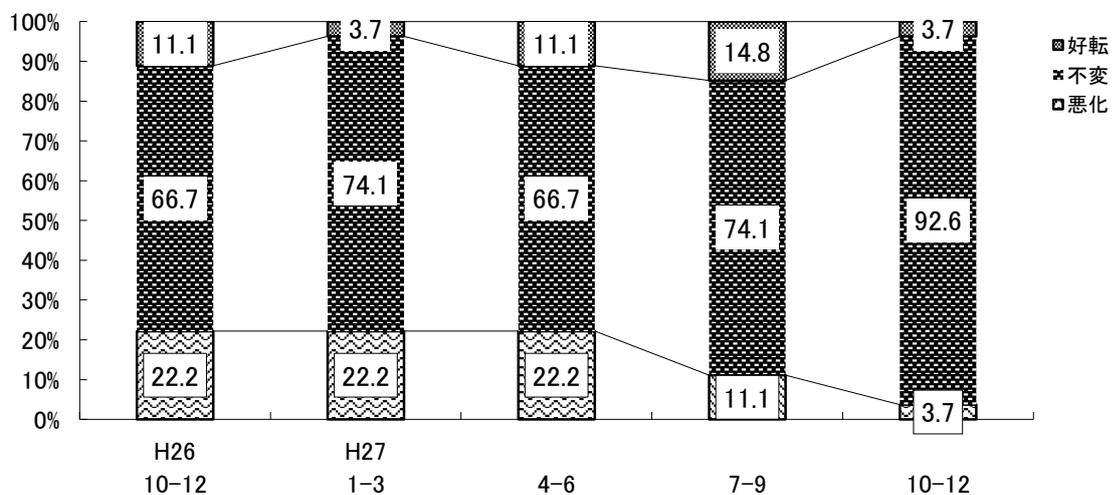
① 売上額の状況－前年同期比－



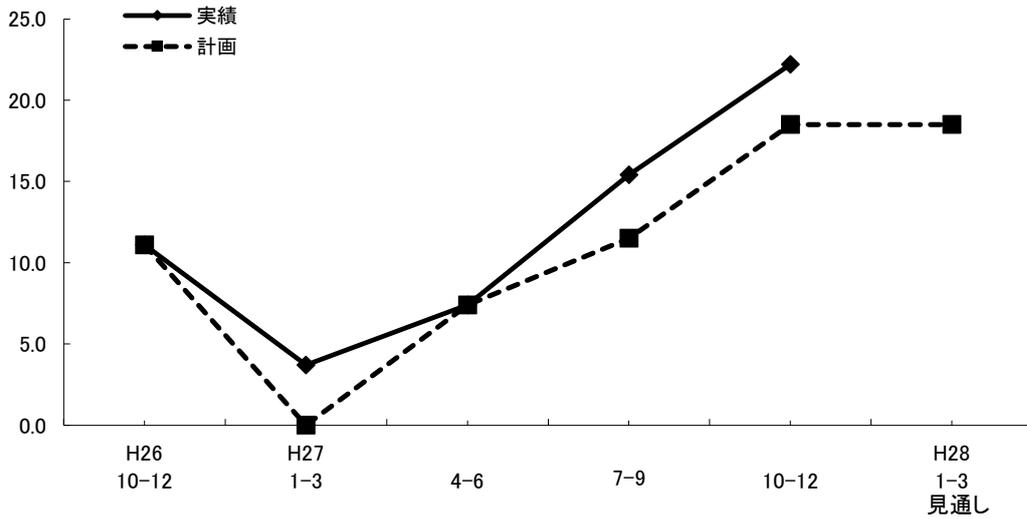
② 採算の状況－前年同期比－



③ 資金繰りの状況－前年同期比－

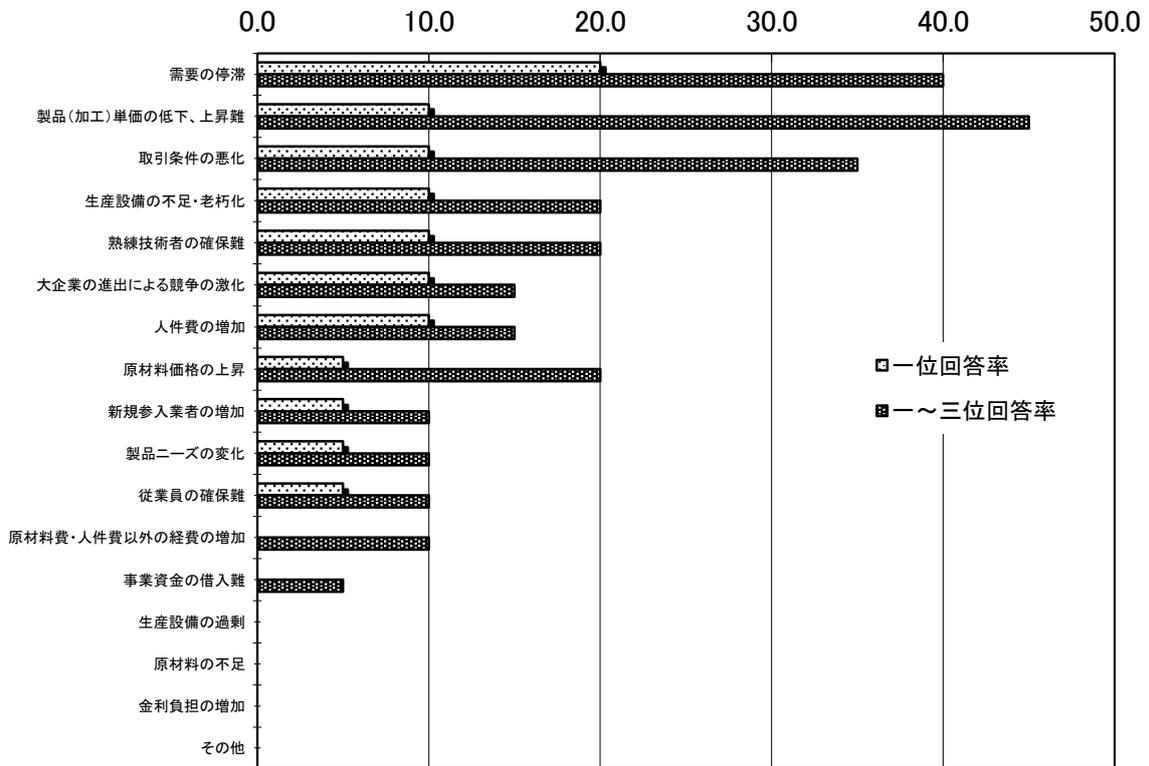


④設備投資の状況



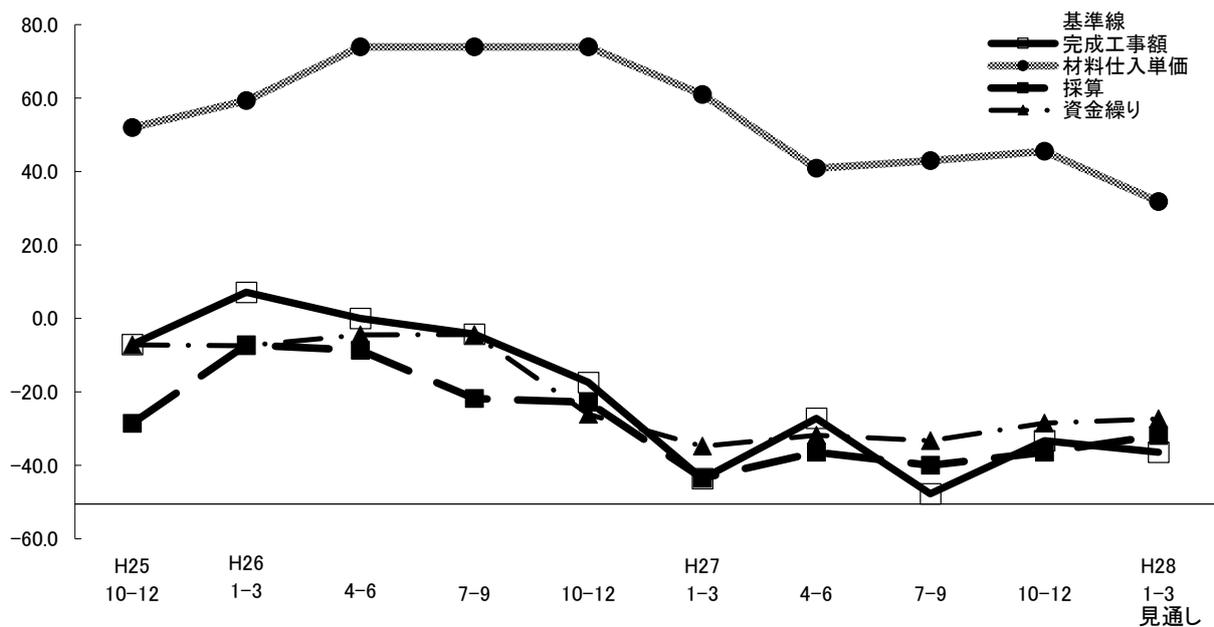
⑤経営上の問題点

企業が選んだ経営上の問題点は示すとおり。
経営上の問題点の状況(1位と1位~3位)



Ⅱ 建設業

主要景況項目の推移

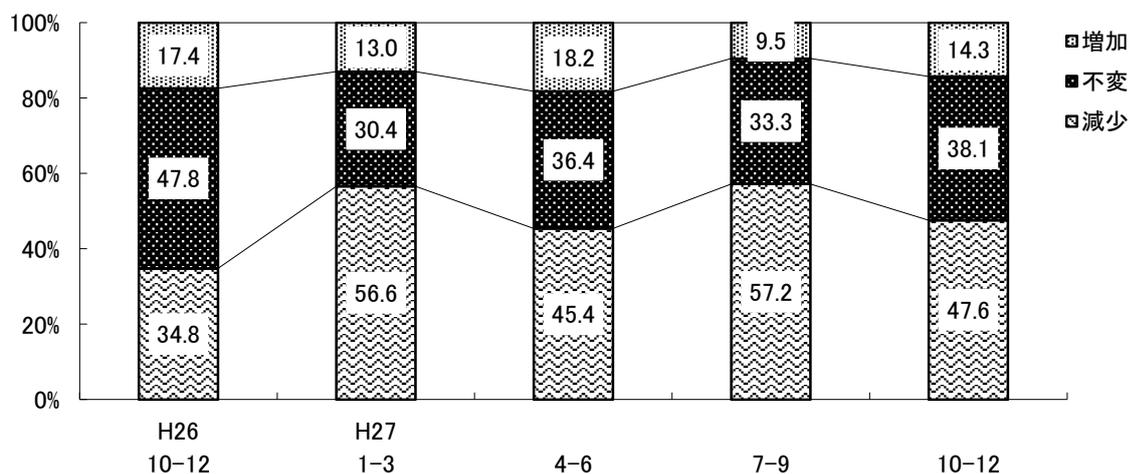


主要項目の天気図

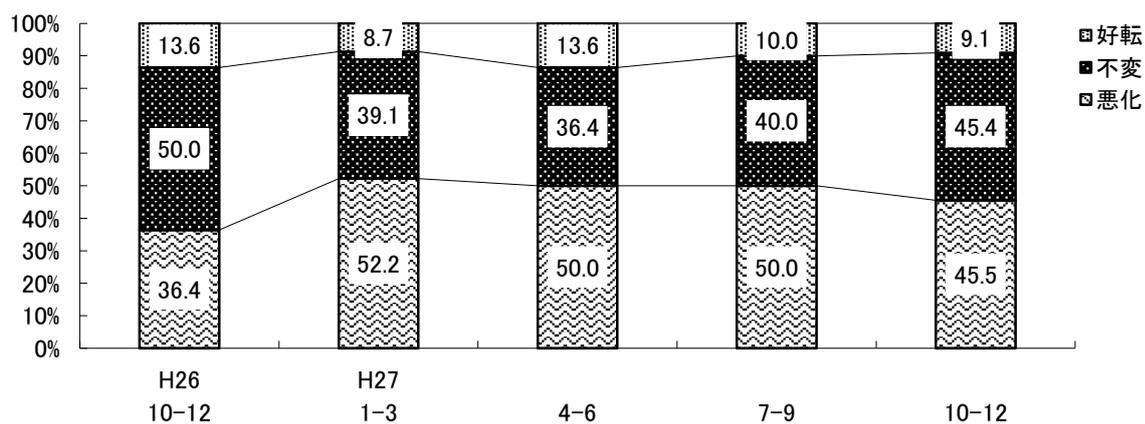
	完成工事額		採 算		資金繰り		業 況	
	DI	天気図	DI	天気図	DI	天気図	DI	天気図
H27/1-3	△ 43.6		△ 43.5		△ 34.8		△ 18.7	
H27/4-6	△ 27.2		△ 36.4		△ 31.8		△ 12.3	
H27/7-9	△ 47.7		△ 40.0		△ 33.3		△ 30.4	
H27/10-12	△ 33.3		△ 36.4		△ 28.5		△ 20.0	
H28/1-3 (見通し)	△ 36.4		△ 31.9		△ 27.3		△ 3.9	

DI: 30.1~.....	
DI: 10.1~30.0.....	
DI: 10.0~△10.0...	
DI: △10.1~△30.0..	
DI: △30.1~.....	

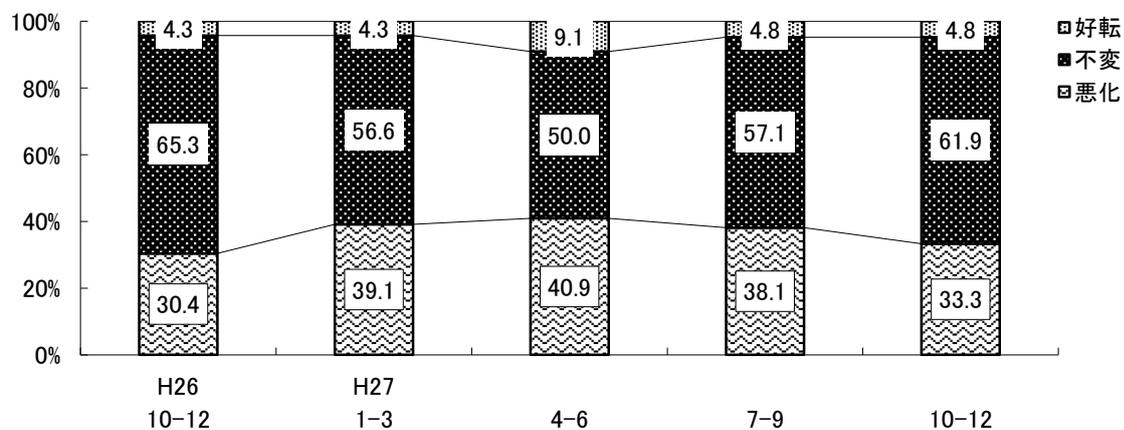
①完成工事額の状況－前年同期比－



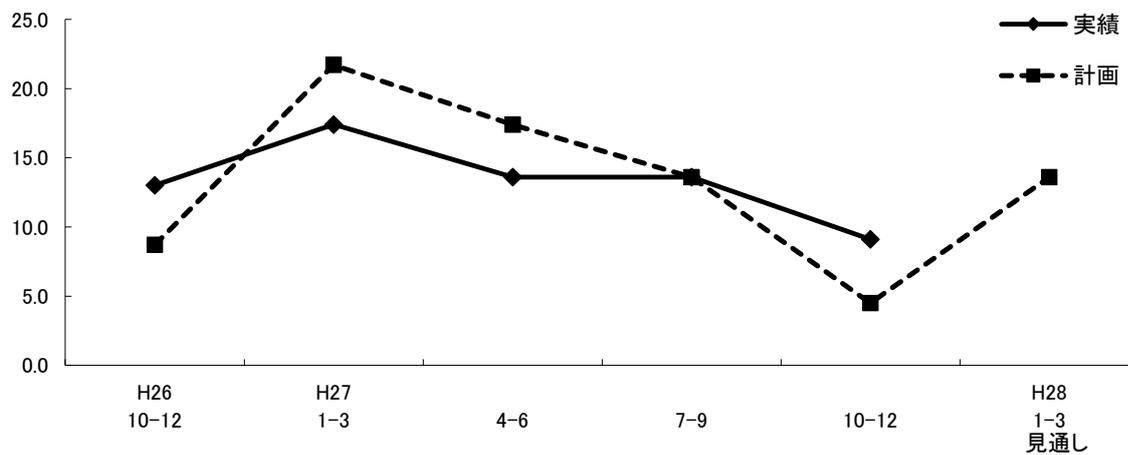
②採算の状況－前年同期比－



③資金繰りの状況－前年同期比－

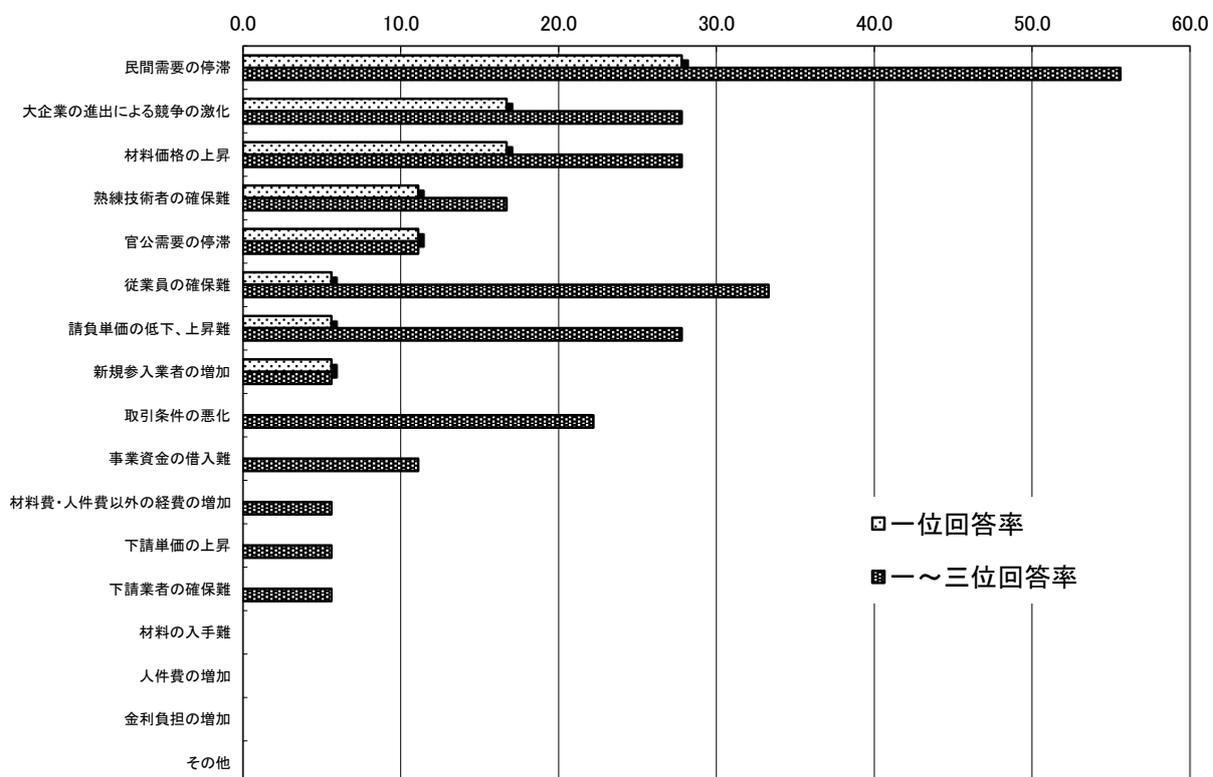


④設備投資の状況



⑤経営上の問題点

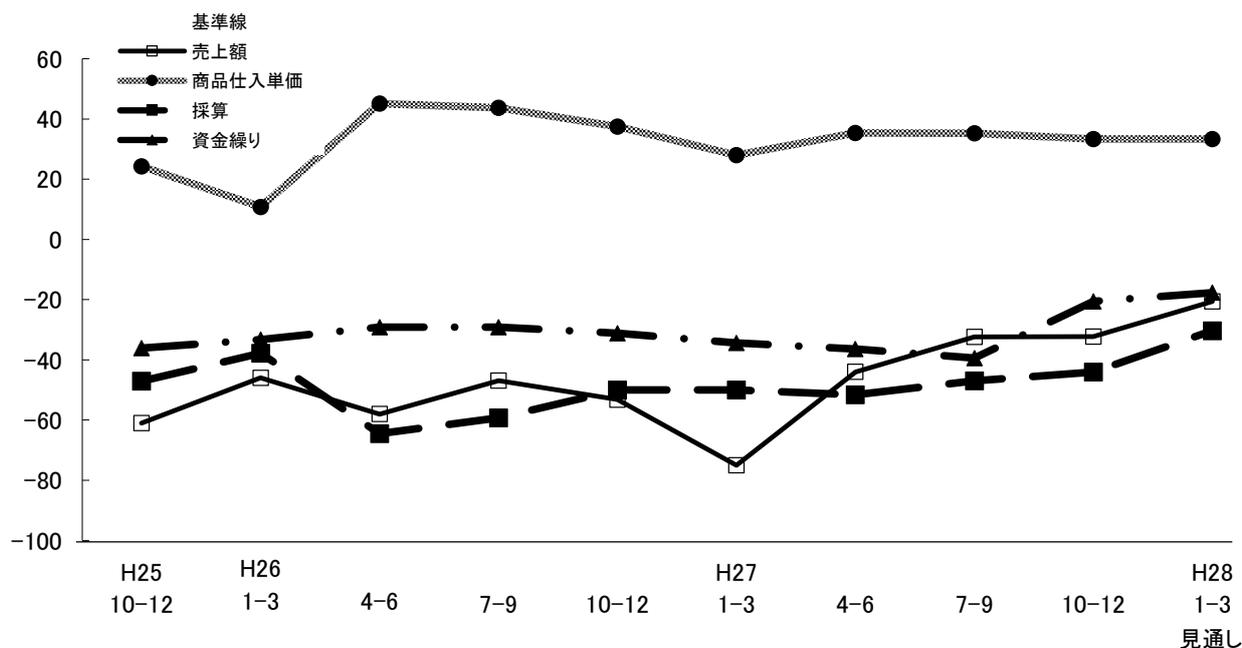
企業が選んだ経営上の問題点は示すとおり。
経営上の問題点の状況（1位と1位～3位）



Ⅲ小 売 業

今期の小売業の主要景況項目の推移は示すとおりとなっている。

主要景況項目の推移—前年同期比—

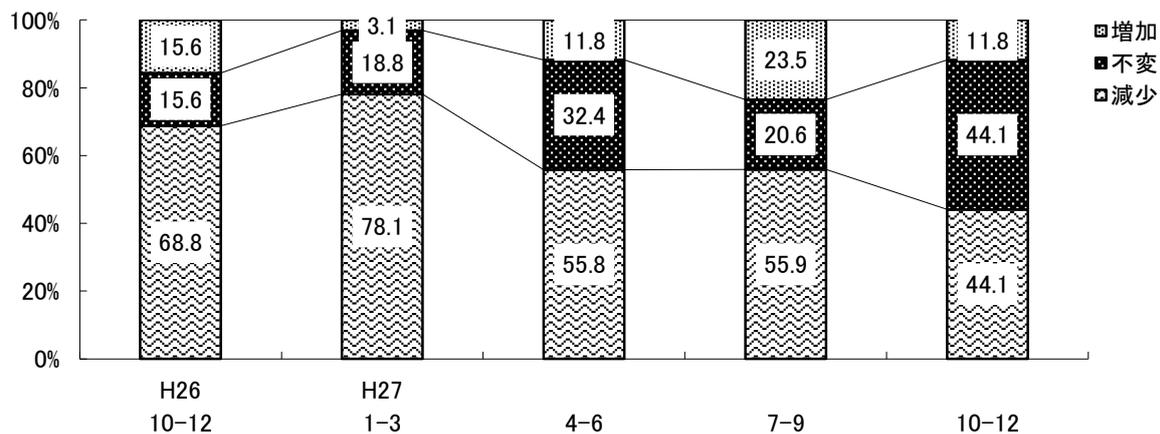


主要項目の天気図

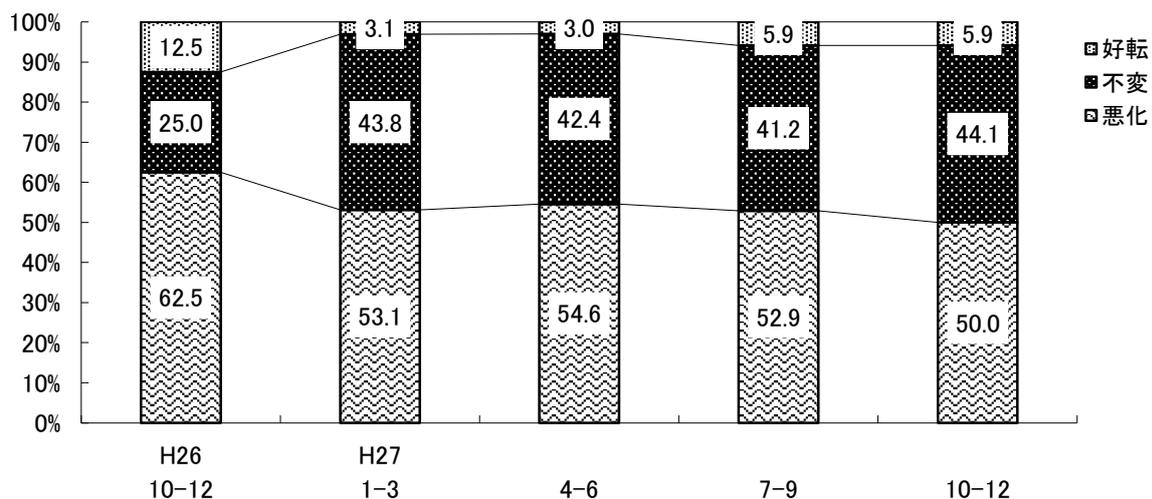
	売上額		採 算		資金繰り		業 況	
	DI	天気図	DI	天気図	DI	天気図	DI	天気図
H27/1-3	△ 75.0		△ 50.0		△ 34.4		△ 38.5	
H27/4-6	△ 44.0		△ 51.6		△ 36.4		△ 30.4	
H27/7-9	△ 32.4		△ 47.0		△ 39.4		△ 34.3	
H27/10-12	△ 32.3		△ 44.1		△ 20.6		△ 30.7	
H28/1-3 (見通し)	△ 20.6		△ 30.3		△ 17.7		△ 22.6	

- DI: 30.1~.....
- DI: 10.1~30.0.....
- DI: 10.0~△10.0...
- DI: △10.1~△30.0..
- DI: △30.1~.....

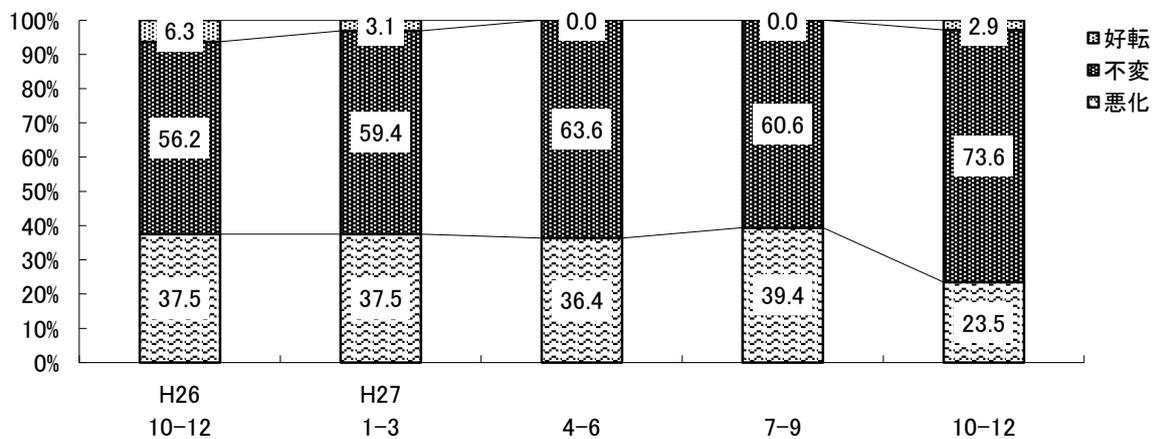
①売上額の状況－前年同期比－



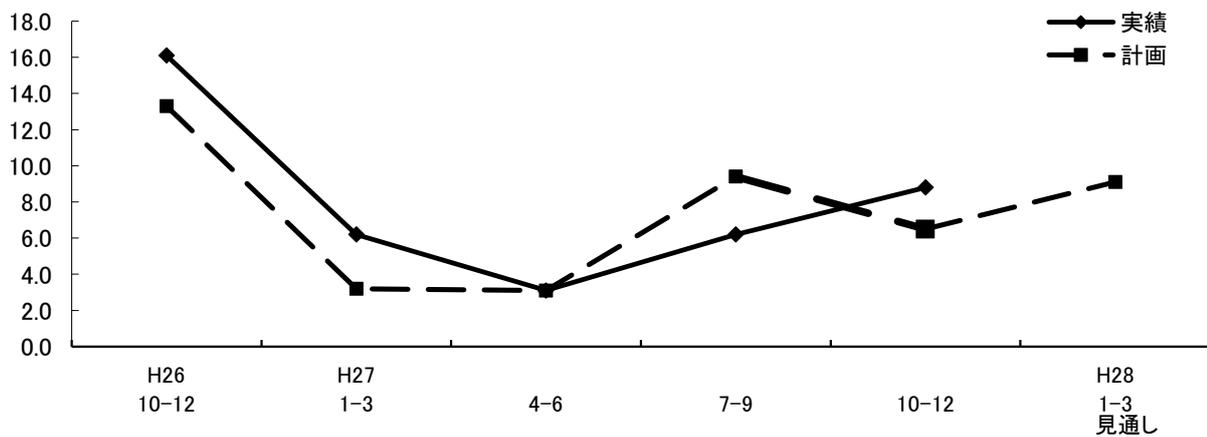
②採算の状況－前年同期比－



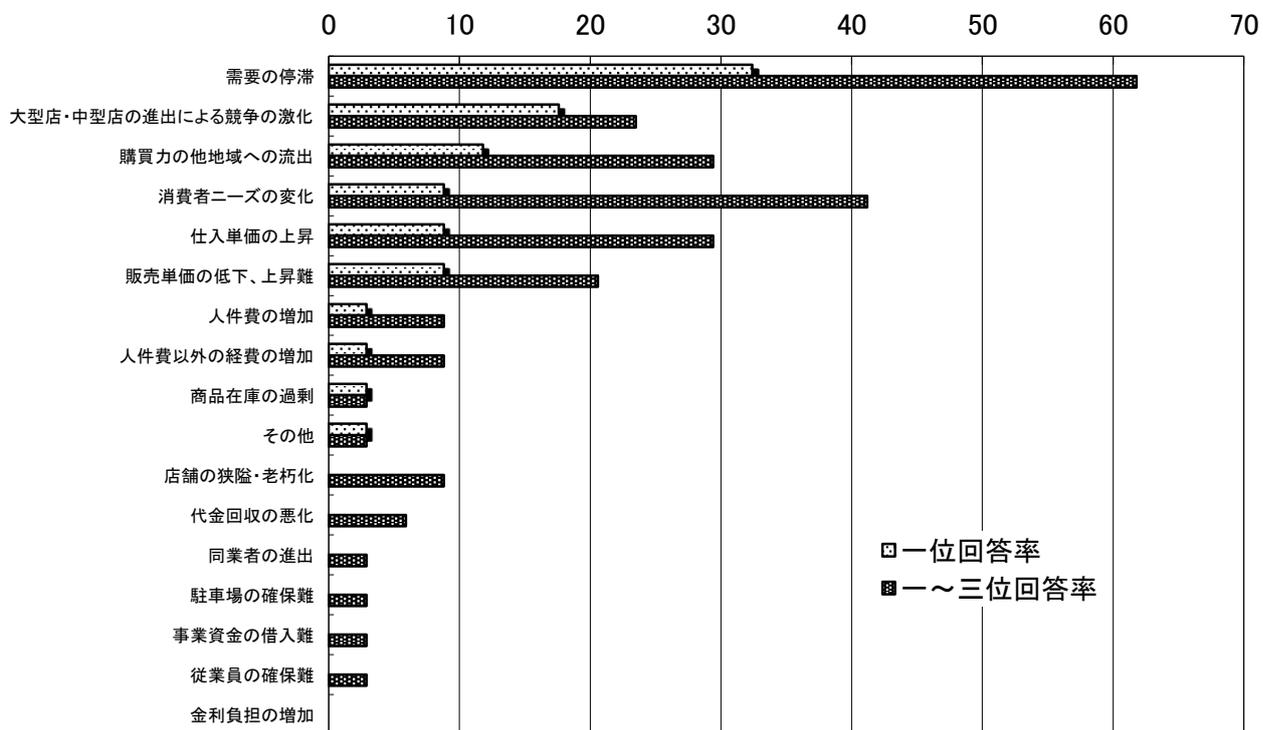
③資金繰りの状況－前年同期比－



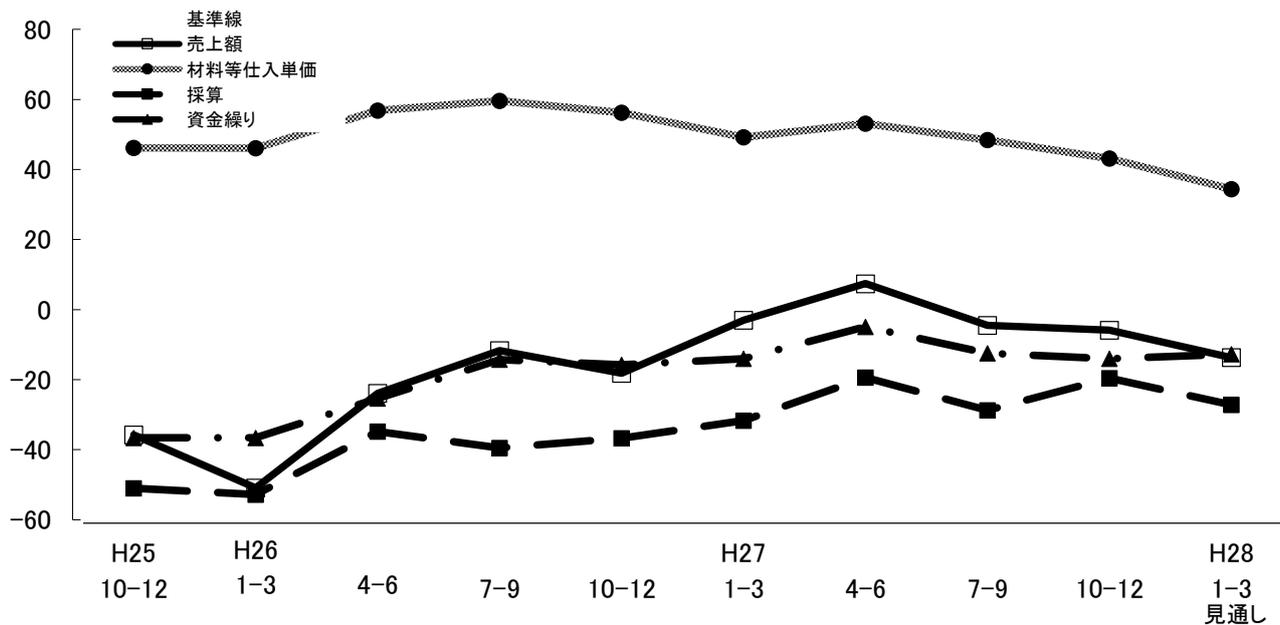
④設備投資の状況



⑤経営上の問題点 企業が選んだ経営上の問題点は示すとおり。 経営上の問題点の状況(1位と1位～3位)



主要景況項目の推移—前年同期比—



主要項目の天気図

	売上額		採算		資金繰り		業況	
	DI	天気図	DI	天気図	DI	天気図	DI	天気図
H27/1-3	△ 3.0		△ 31.7		△ 14.0		△ 15.6	
H27/4-6	7.4		△ 19.4		△ 4.9		△ 3.0	
H27/7-9	△ 4.5		△ 28.8		△ 12.5		△ 5.9	
H27/10-12	△ 5.9		△ 19.6		△ 14.0		△ 7.7	
H28/1-3 (見通し)	△ 13.7		△ 27.2		△ 12.7		△ 13.3	

DI: 30.1~.....

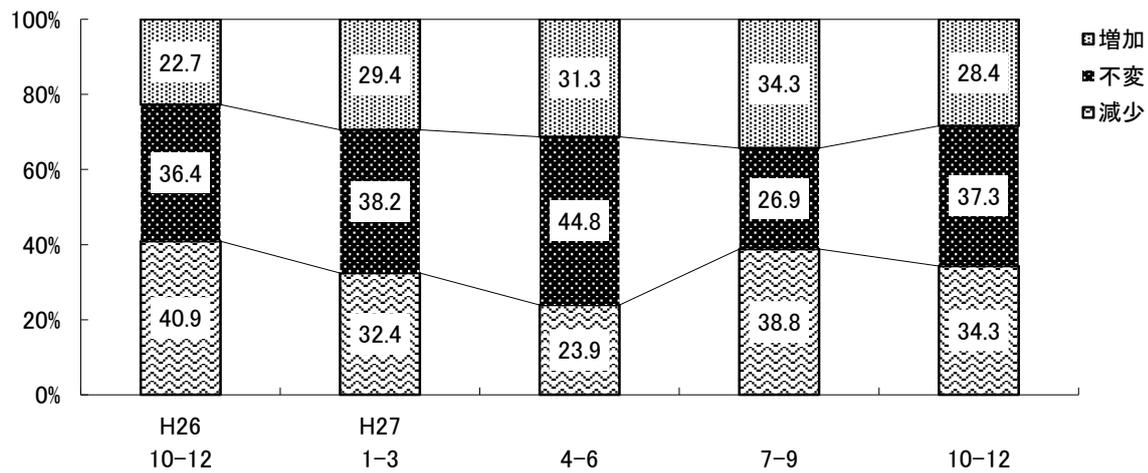
DI: 10.1~30.0.....

DI: 10.0~△10.0...

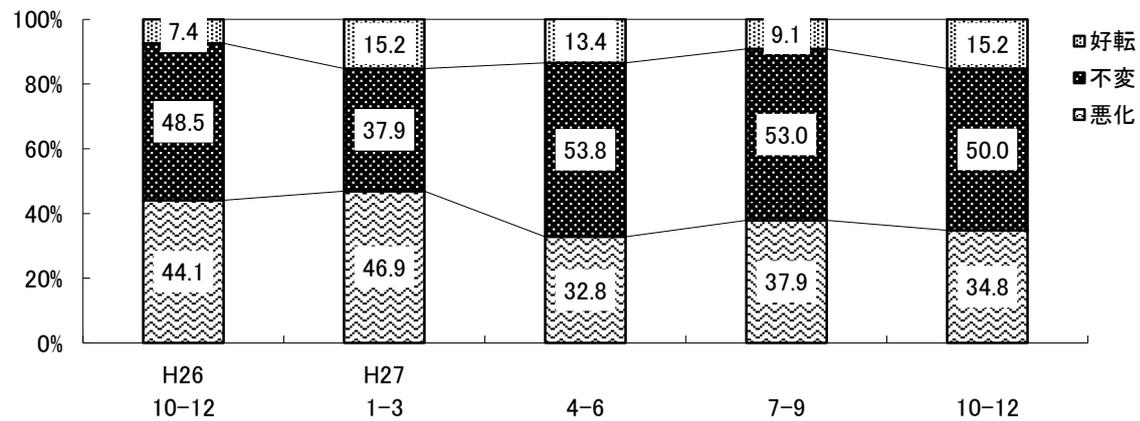
DI: △10.1~△30.0..

DI: △30.1~.....

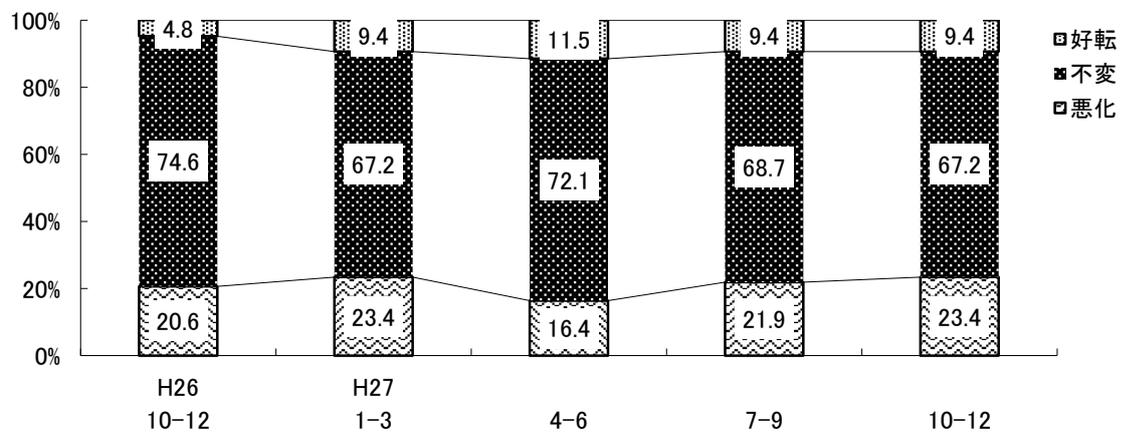
①売上額の状況－前年同期比－



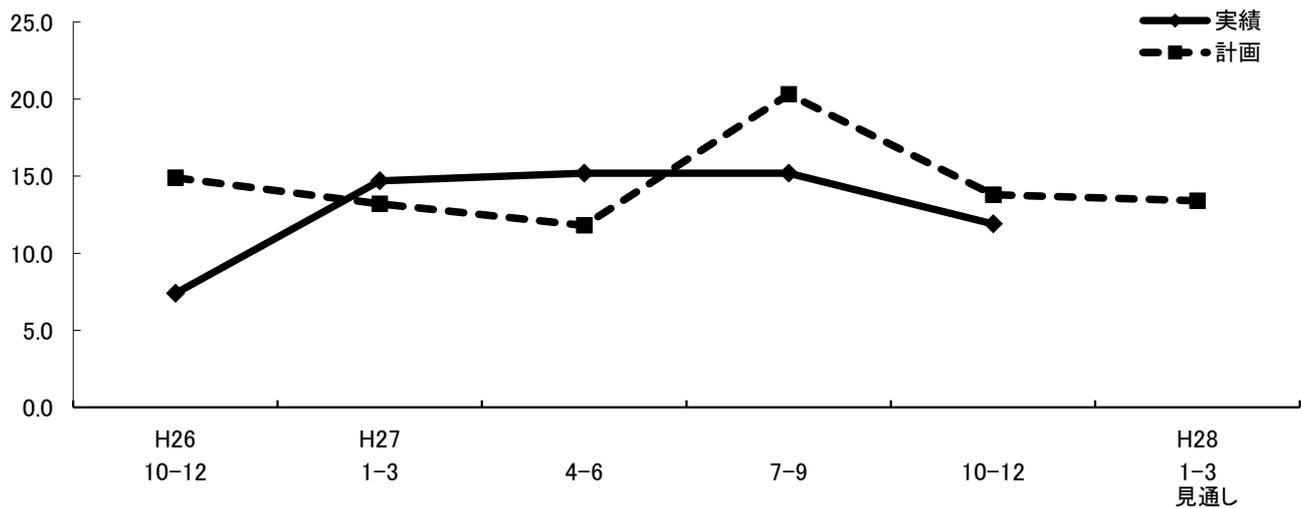
②採算の状況－前年同期比－



③資金繰りの状況－前年同期比－

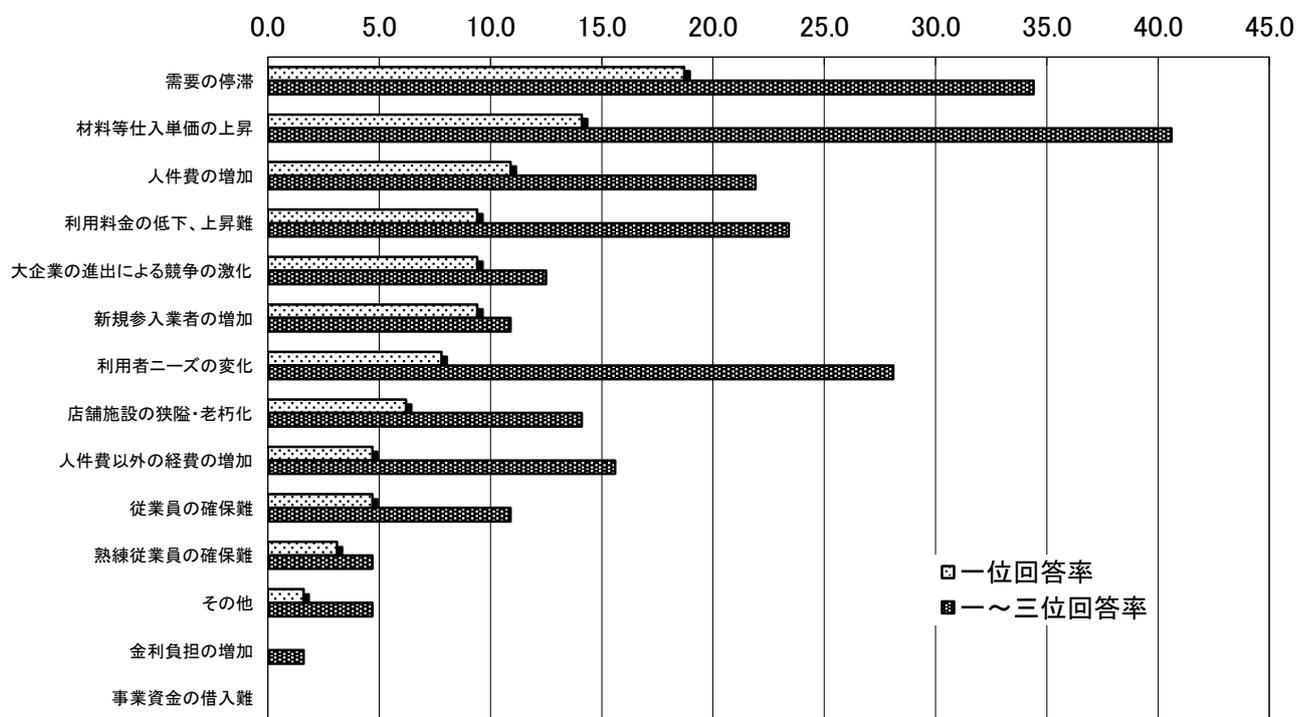


④設備投資の状況



⑤経営上の問題点

企業が選んだ経営上の問題点は示すとおり。
経営上の問題点の状況(1位と1位～3位)



景況判断の背景

製造業

- ◇ 官公庁関係の需要はある。民間からの引合いは現在低調。
- ◇ 収益アップする受注につなげたい。新規受注が少ない。
- ◇ 収益性の高い継続受注が少ない。
- ◇ 新規受注の開拓をめざす事が急務です。
- ◇ H27年度は例年多い客先の売上げが減少しているのみでなく、全客先の売上げ減少が起きているので、企業全体が延び悩んでいる様です。
- ◇ 広告力などがまさる他の同業者が、町内に多数進出して圧迫されています。
- ◇ 当社の事業理念の一つに、商品の需要はお客様からもたらされるものではなく、自らが研究開発し、常に開拓すべきものであるとあります。常に、これを念頭に経営を行っています。
- ◇ 従業員の不足で、ニーズはあっても対応できない状況である。

建設業

- ◇ 一年を通して順調に仕事が入り、忙しい日々を送っている。
- ◇ 官公事業の入札件数が増加した。売上向上に繋がった。民間からの需要が多くなった。
- ◇ 今期、来期とも低調。
- ◇ 今期は、建築工事の物件がたくさんあり順調ですが、データ改ざん事件で、建設業の物件の低下にならなければ良いと思います。また検査等の書類提出が一段と面倒になりそう・・・
- ◇ 近年は増改築工事しなく大手ハウスメーカーが完全に住宅建築を独占している。
- ◇ 大手ハウスメーカーの下請に入らないと受注は無い。
- ◇ やや受注件数の減少がみられるが、収支はトントンである。
- ◇ まじめで丁寧な仕事が評価され、仕事の依頼が増えた。
- ◇ 新築工事もないがリフォーム工事もなかなか少ないと思う、うちでは特にお客様にセールスとかもしていないので少ないのかとも思うが、みなさん無理にお金を使わないとも感じられます。
- ◇ 近隣でも民間工事が少ないため、経費のかかる遠方の現場を行わざるを得ない状況。

小売業

- ◇ プレミアム商品券の効果もあり、少しではあるが売上が伸びた。
- ◇ クリスマス商戦・年末商戦が近づき、商品が動いてきている。
- ◇ 年末に少しでも売上増につながる様、販促に力を入れたい。
- ◇ 景気の悪化により消費者のニーズの変化への対応が難しく、受注難となっている。
- ◇ 全体的に料理をつくらなくなっている。少人数の為コンビニ商品で間に合わせている。
- ◇ 同業者が次々と撤退することによって多少お客さんが増加する見込み。しかし、学校や個人の予算は削られているか、他社へ行っているようで、好転を実感してはいない。個人商店は店を残すことに必死。
- ◇ 大型、中型店に比べ、対抗策もない小売店への客足は遠のく一方であり淘汰される状況である。
- ◇ 来期は年末特需が期待出来るので、この期間にどれだけ業績を出せるかが大切である。他の期間は例年通りと見込んでいる。
- ◇ 農作物の価格下落による農業機械購買意欲の低下や高齢化、それにとまなう離農者の増加等。
- ◇ 大手スーパー並びにコンビニ等に客をとられ販売単価も減少している。酒類小売店は今後なりたたないと考えられる。
- ◇ 夏よりも秋、冬が繁盛期な為、増加や好転といった方向ですが、季節によって大分違うので安心はできません。心配事は材料費(特に輸入の品)は値段が上がっているのですが、売値はなかなか上げられないことです。
- ◇ 医薬品・サプリメントに対する正しい知識や情報を提供する努力を続けていきたい。厚生労働省が示している「かかりつけ薬局・薬剤師」を目指し日々精進したいと考えております。

サービス業

- ◇ 引き続き順調に経営が推移している。
- ◇ 顧客の高齢化に伴い新たなサービスやメニューを提案したい。
- ◇ 白髪染め、カラーリングに適したメニューが好評でうまく顧客を維持できている。
- ◇ 新規顧客が増加しない。高齢者の顧客が中心であるが年々減少している。
- ◇ 後継者予定の息子が開発した新商品が好評である。
- ◇ ヤル気ある若者の従業員が確保できた。
- ◇ 売上額が減少傾向。新規顧客確保が難しい。
- ◇ 利用客の減少や低料金店への流出が感じられる。
- ◇ 前は、仕事の出方が、10月から6ヶ月間位の繁忙期が、ここ数年1月頃からとみじかくなっている。
- ◇ 物価の上昇が、消費をにぶらせている事ははっきりわかる。親子(大人+小学生)で来ても、1人分の注文しかしてもらえず、客単価を低下させてしまっている。結果、集客数が増えても、売上げ上昇につながらない。
- ◇ 年々悪くなります。消費税が10%になると益々ひどくなるのではないかと心配です。
- ◇ 年配のお客様が多い為、客数が減少傾向になっている。新規のお客様の獲得、開拓へ。
- ◇ 特に悪い訳でもなく平均的な売上状況です。
- ◇ 企業は販路拡大への取組みに相変わらず苦慮しており、展示会出展や販促ツール開発を重視している。クライアント毎に抱えている課題に対して戦術レベルでの細かい実行プランの提案により業務依頼に繋げることが必要。
- ◇ 9月～12月迄の売上は順調に推移すると思考されると共に従業員2名増加した。来年1月～3月迄の売上が確保出来るか不安を感じる。
- ◇ 高齢者の年金受給目減りにより利用を控える傾向にあると思われる。
- ◇ 電話が増えた様に感じるが同業者も増えている。
- ◇ 町に元気がない。この町ならではの物が無い。
- ◇ 顧客単価が上がり、仕事量も増加、それに伴い従業員の確保、外注費の増加があります。変化に対応すべく、考えています。
- ◇ 可もなく不可もなくという感じです。経費等の見直しなどで多少の出費の軽減が出来そうです。
- ◇ マスコミに取り上げられ来客数は増加したが一時的なもので、物価上昇により利益は下がる一方だし来店客も、使う金額が増えている訳でもないで今だ厳しい営業を行っている。
- ◇ パート従業員は皆、年収103万未満を希望するが、人件費の増加により時間が短縮される。よって人材確保する為に募集するが、全く問い合わせ無い方が多い。103万の壁を引き上げてくれると良いのですが。
- ◇ 地域周辺にコンビニの増加により、買弁などに流れが出てきているのかランチの数がコンビニの増加と共に少なくなってきた感じがします。
- ◇ 物価上昇でお客様の財布が厳しくなり、当店への来店回数の減少、客単価の減少につながってしまっている。
- ◇ 売上は、ほぼ変わらない数字で推移している。原材料の値上げ傾向は続いており、利益率は悪化している。これで消費税が10%になったら、深刻な状況になると懸念しています。
- ◇ 売上の微増は継続している。客数は、わずかながらも増加(固定客化)していると思われる。しかし、原材料価格の上昇傾向は続いており、利益率に悪影響を与えている。
- ◇ 箱根大涌谷の噴火騒動により売上が落ち込み、売上を他でカバー出来なかった。消費は相変わらず鈍い。
- ◇ 来期、新規参入業者の増加により、売上げの減少が、大幅にアップ。これをどう乗りきるか、今後の課題。
- ◇ 大手業者の進出があり、入館者数減・売上減が見込まれます。未だ仕入れ価格も上昇中で経費増が確実であり、最低賃金の改定は、零細企業にとっては厳しい負担増の状況です。